

平成15年5月27日

平成15年3月期 決算の概要について

シロキ工業株式会社

(輸送用機器 東証、名証第1部上場)

(* 百万円未満以下切り捨ててあります)

1、連結決算について

連結の決算概要につきましてご説明させていただきます。

3月31日現在の当社の連結子会社は国内6社、海外5社の11社で、また持分法適用関連会社は3社で、それぞれ前期に対して変更はありません。なお、本年5月7日に中国の江蘇省昆山市に全額出資の現地生産会社「昆山白木汽車零部件有限公司」を設立いたしました。

[国内外での売上好調で過去最高の1139億円]

売上高は前期比14.2%増の1139億2千4百万円で、141億5千7百万円の大幅な増収となり、過去最高の売上をあげることができました。

増収の主な要因は、シロキ工業と北米生産子会社のSWマニュファクチャリング(テネシー州)の売上増によるものです。

シロキ工業は得意先の輸出好調に伴う生産増と得意先への拡販活動により、前期比10.0%増の900億8千7百万円で82億5百万円の増収となり、またSWマニュファクチャリングは昨年1月より新たにドアサッシの生産を開始したことやトヨタ自動車(株)の北米での販売が好調に推移し生産が増加したことなどからアメリカにおける売上高は前期比38.7%増の220億4千2百万円で61億5千3百万円の増収となりました。

[合理化効果も加わり利益も過去最高]

利益につきましては、営業利益は前期比90.1%増の60億3千3百万円で、28億6千万円の増益となり、また経常利益は前期比60.1%増の54億7千5百万円で、20億5千5百万円の増益。当期純利益も39.9%増の23億3千8百万円で、

連結(上段当期、下段前期)

売上高:

1139億2千4百万円

997億6千7百万円

(前期比14.2%増)

営業利益:

60億3千3百万円

31億7千3百万円

(前期比90.1%増)

経常利益:

54億7千5百万円

34億2千万円

(前期比60.1%増)

当期純利益:

23億3千8百万円

16億7千1百万円

(前期比39.9%増)

1株当たり当期純利益

25円56銭

18円79銭

海外売上高比率

19.8%

16.3%

設備投資

48億8千8百万円

56億6千7百万円

減価償却費

56億9千2百万円

53億8千3百万円

6億6千6百万円の増益となりました。それぞれの利益につきましては過去最高のものとなりました。

主な増益要因は、シロキ工業とSWマニユファクチャリングの売上増加に伴う増益効果と原価改善活動などによる合理化効果によるものです。

2、個別決算について

[得意先の輸出好調と拡販で売上10%増]

シロキ工業単独につきましては、売上高は前期比10.0%増の900億8千7百万円で、82億5百万円の増収となりました。

増収の主な要因は、得意先の輸出好調に伴う生産増と得意先への拡販活動によるシート機能部品などの受注増によるもので、輸出車や新型車向けが大きく伸長しました。

得意先別ではトヨタ自動車(株)が前期比18億7千2百万円増(5.5%増)のほか、スズキ(株)が18億9千万円増(18.1%増)、日産自動車(株)が10億7千7百万円増(39.7%増)と好調に売上が伸び、また製品別ではシートリクライナ・シートアジャスタが46億5百万円増(17.3%増)、ウインドレギュレータが21億9千7百万円増(9.8%増)、ドアサッシが14億8千3百万円増(9.1%増)と主力製品が順調に売上を伸ばしました。

[営業利益は5期、経常利益は4期連続増益、
過去最高利益も達成]

利益につきましては、営業利益は退職給付費用が前期比で4億1百万円増加したものの、前期比103.4%増の45億1千6百万円で、22億9千6百万円の増で5期連続の増益。経常利益は116.3%増の44億9千8百万円で、24億1千8百万円の増で4期連続の増益となり、いずれも過去最高の利益となりました。

増益の主な要因は、売上増による増益効果と、全社をあげた業務改革と収支改善活動などによるもので、16億5千5百万円の合理化効果をあげました。

個別(上段当期、下段前期)

売上高:

900億8千7百万円

818億8千2百万円

(前期比10.0%増)

営業利益:

45億1千6百万円

22億2千万円

(前期比103.4%増)

*退職給付費用前期比

4億1百万円増加

経常利益:

44億9千8百万円

20億8千万円

(前期比116.3%

増)

特別利益:

7千3百万円

12億7千2百万円

特別損失:

15億5千2百万円

21億7千9百万円

・固定資産除却損

(4億1千3百万円)

・退職給付費用

(6億6千万円)

(*会計基準移行時差異

5年均等費用処理分)

当期純利益:

15億5千3百万円

6億8千3百万円

(前期比127.2%増)

1株当たり当期純利益

16円88銭

7円68銭

得意先について

(上段当期、下段前期)

・トヨタG (64.9%)

584億7千1百万円

543億7千3百万円

(7.5%増)

・売上高上位3社

トヨタ自動車(39.8%)

358億6千6百万円

339億9千3百万円

(5.5%増)

スズキ (13.7%)

123億5千3百万円

104億6千3百万円

(18.1%増)

三菱自動車工業(7.6%)

68億5千8百万円

68億6千4百万円

(0.1%減)

* 社名横の()内は

売上構成比率

[当期純利益は 1 5 億 5 千 3 百万円]

最終損益につきましては、固定資産売却益 7 千 3 百万円や財務体質強化のため固定資産除却損として 4 億 1 千 3 百万円、退職給付費用として 6 億 6 千万円などを計上した結果、当期純利益は前期比 1 2 7 . 2 % 増の 1 5 億 5 千 3 百万円で 8 億 6 千 9 百万円の増益となりました。

[期末利益配当金は 1 円増額の 5 円に]

期末利益配当金につきましては、売上増とともに、全社をあげて取り組んだ業務改革と収支改善活動などにより、期初予想を上回る利益をあげることができましたため、株主への利益還元ならびに事業環境、中長期的な企業体質の強化などを総合的に勘案し、前期に対し 1 円増額の 1 株につき 5 円といたしました。（ 4 月 2 3 日に増配の修正発表をいたしました。）

3、15年3月期の主な取り組み実績

当社では中期経営計画（01～05）を本年1月に見直し、これに沿って経営の効率化と企業体質の強化を一段と進めております。特に世界4極市場への対応のためグローバル化を強力に推進し、世界競争勝ち残りを図るべく取り組みを展開しております。現在までに実施した主な取り組みは次の通りです。

(1) 攻める：技術開発・営業活動強化により売上拡大

国内展開

九州シロキ操業開始（昨年7月）

- ・ドアサッシ、シートリクライナ・シートアジャスタの生産開始
- ・九州地区での受注拡大への対応と国内生産拠点の最適化を推進

ドア事業部新設（昨年12月）

- ・経営資源の主力5製品への集中を促進し、国際競争力強化

海外展開

シロキタイランド（タイ）操業開始（昨年11月）

- ・ウインドレギュレータの生産開始

主要製品について

（上段当期、下段前期）

シートリクライナ・

シートアジャスタ（34.6%）

3 1 2 億 3 百万円

2 6 5 億 9 千 8 百万円

（ 1 7 . 3 % 増 ）

ウインドレギュレータ

（ 2 7 . 3 % ）

2 4 6 億 2 百万円

2 2 4 億 4 百万円

（ 9 . 8 % 増 ）

ドアサッシ（ 1 9 . 7 % ）

1 7 7 億 4 千 3 百万円

1 6 2 億 5 千 9 百万円

（ 9 . 1 % 増 ）

* 製品名横の（ ）内は
売上構成比率

設備投資

3 5 億 1 千 1 百万円

3 7 億 1 千 3 百万円

減価償却費

4 9 億 3 千 7 百万円

4 7 億 9 千 1 百万円

改善活動の成果

1 6 億 5 千 5 百万円

費目	百万円
売上高	4 8 8
材料費	7 5 2
労務費	2 3 5
経費	4 3
工販管費	1 2 7
本販管費	1 0
合計	1、6 5 5

- ・新工場建設工事着工（昨年12月）
- ・アジアでの生産・供給体制を整備し、世界4極市場対応を加速

中国進出決定（本年3月）

- ・中国・江蘇省昆山市に工場進出を決定
- ・アジアでの生産・供給体制を強化し、世界4市場対応を加速

(2) 守る：借入金を減らし財務体質を強化する

固定費削減

- ・借入金の削減
209億円（前期末） 199億円（当期末）
- 資産売却
- ・固定資産売却
名古屋デポ土地売却

4、連結業績予想について

[減収減益を予想]

今期の連結の業績予想につきましては、売上高は通期で1100億円、前期比39億2千4百万円の減収を予想しています。アメリカの売上高は231億円と前期比で10億5千8百万円の増収と堅調に推移するものの、主としてシロキ工業の売上が前期比で55億8千7百万円の減収を予想しているためです。通期の営業利益につきましては、40億円で20億3千3百万円の減益、通期の経常利益は35億円で19億7千5百万円の減益、また通期の当期純利益は18億円で5億3千8百万円の減益を予想しています。

5、単独業績予想について

[国内経済と北米輸出の先行き不透明感で減収減益を予想]

単独の業績予想につきましては、国内経済の先行き不透明感による消費者心理の冷え込みや北米への輸出減速の懸念などから国内生産の伸長は難しいと思われますところから、通期の売上高は845億円と予想し、前期比55億8千7百万円の減収を予想しています。通期の営業利益につきましては、24億円で前期比21億1千6百万円の減益、通

16年3月期予想 連結（上段予想、下段前期実績）

売上高
1100億円
1139億2千4百万円
（前期比3.4%減）
営業利益
40億円
60億3千3百万円
（前期比33.7%減）
経常利益
35億円
54億7千5百万円
（前期比36.1%減）
当期純利益
18億円
23億3千8百万円
（前期比23.0%減）

1株当たり
予想当期純利益
20円24銭

設備投資
43億2千2百万円

減価償却費
59億1千1百万円

単独（上段予想、下段前期実績）

売上高
845億円
900億8千7百万円
（前期比6.2%減）
営業利益
24億円
45億1千6百万円
（前期比46.9%減）
経常利益
23億円
44億9千8百万円
（前期比48.9%減）
当期純利益
7億円
15億5千3百万円
（前期比54.9%減）

1株当たり
予想当期純利益
7円29銭

設備投資
34億円

減価償却費
47億9千万円

期の経常利益につきましても23億円で前期比21億9千8百万円の減益を予想しています。当期純利益は7億円で前期比8億5千3百万円の減益を予想しています。

当社といたしましては、中期経営計画に沿った経営の効率化と企業体質の強化を一段と進めるとともに、世界4極市場への対応を引き続き加速し、市場をリードする魅力ある製品開発と世界No.1製品づくりによるシロキブランドの向上、および総原価改善活動の目標達成を重点に、国際競争力強化に取り組み、世界競争に勝ち残りをはかってまいります。

6、16年3月期の主な取り組みについて

1、グローバル展開の加速

中国・江蘇省昆山市に工場進出

- ・ 現地生産会社「昆山白木汽車零部件有限公司」を設立（本年5月）

- ・ アジアでの生産・供給体制を強化し、世界4市場対応を加速

シロキタイランド（タイ）の新工場完成

- ・ 新工場稼動（本年8月）
- ・ アジアでの生産・供給体制を強化し、世界4市場対応を加速

2、利益体質の定着化

固定費削減

設備投資の抑制

借入金の削減

- ・ 199億円（前期末） 179億円（当期末）

3、グループ事業の改革

子会社・関連会社の事業見直し

この件のお問い合わせは：

シロキ工業株式会社（0533）84-4691

経理部長

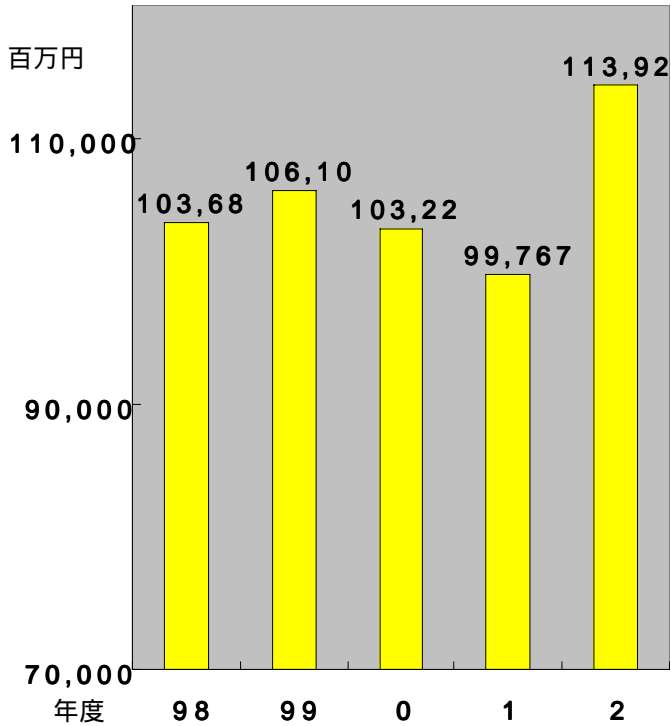
総務部広報担当

大石

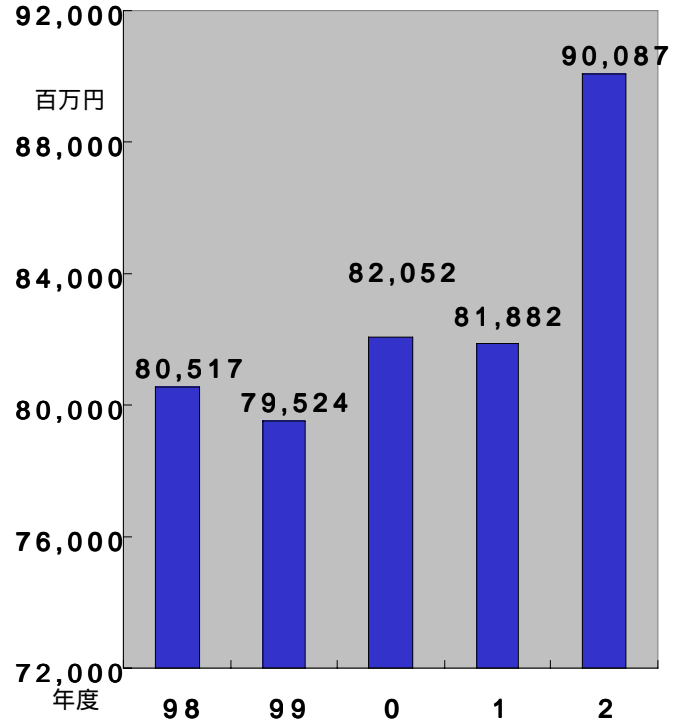
眞野 まで

ご参考

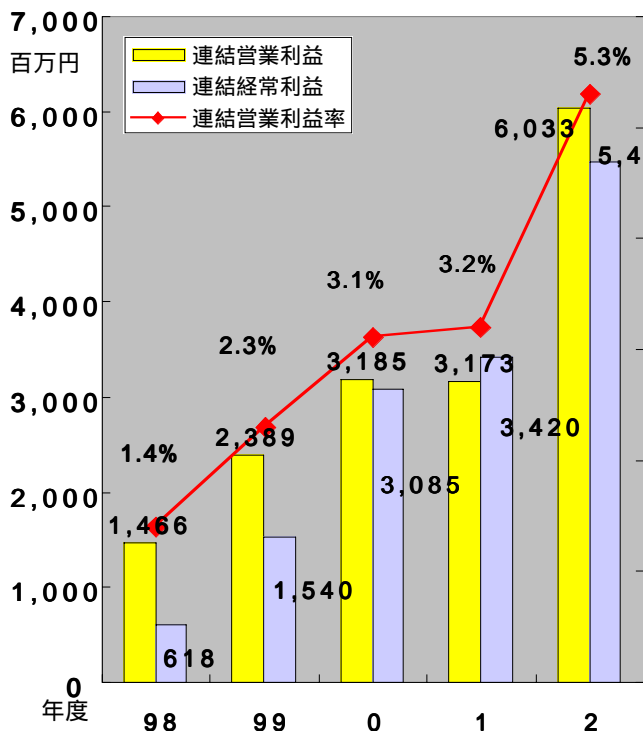
連結売上高推移



個別売上高推移



連結利益推移



個別利益推移

